

Vonnegutの脳コンピューター
GalápagosとHocus Pocusを中心として

諸川重剛*

Vonnegut's Brain Computer
Laying stress on Galápagos and Hocus Pocus

Shigetake Morokawa

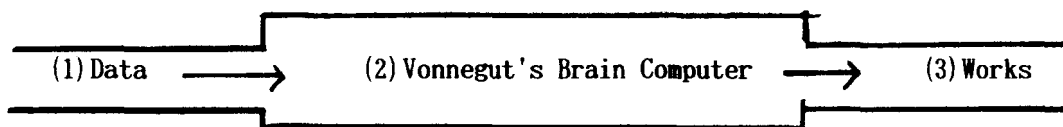
(Received October 29, 1996)

As Kurt Vonnegut (1922--) has written his novels to give warnings about the growing danger of society, in the case of valuation, it is very important to understand what happened in his time and how his works resulted from a historic background.

In the late of 1970's and 80's, society underwent a few big changes, for example, signs of communism collapse on a line of the Soviet Union's perestroika, Japanese rapid economic growth, the unbalanced world economy by the heavy fall in stock prices in America and, in the field of science, the progress of computer technology in the use of a semiconductor instead of a vacuum tube.

The mentioned above data were input into Vonnegut's Brain Computer. As a result, Galápagos was published in 1985, Hocus Pocus in 1990.

In this paper, I analyzed Vonnegut's works from such a point of view, laying stress on Galápagos and Hocus Pocus.



(1) 打ち込まれたデータ

Galápagos (以下Ga.) は、1985年Delacorte Pressから出版された。Vonnegut (以下V.) は、その前年、東京で開催された国際ペン大会に会員として参加し、次の作品は日本人が何人が登場し、進化論をテーマにしたもので、舞台はGalápagos Islands, 時代は百万年後の世界であると、おおよその構想を述べたり、日本のロボットが

*岡山大学環境理工学部

アメリカに進出し、労働者たちから人間としての威厳を奪うという小説のアイデアを披露し、コンピューターに打ち込めば、これからは機械がおもしろい小説を書くようになるという話を、NHKの講演会で述べる予定であると語った。

実際に、Ga.にはZenji Hiroguchi, Hisako Hiroguchiをはじめ、日本人名のAkiko, Kamikazeが登場し、コンピューター技師Zenji Hiroguchiは、獣医のKenzaburoという偽名を用いている。Kenzaburoというのは、来日のときに対談を行った大江健三郎に由来する名前であると思われる。

作品を創り出すという小説家にとって、作中の人物名を決めるというのは楽しい作業のひとつであろう。しかし、名前というのはその人物の看板ではあるが、中身の実態とかけ離れていることもある。Ga.の百万年後の地球では、進化の結果として名前は消滅してしまい、再々実態を欺いた名前は、自然淘汰の結果、人間をこの上なく正直にして男女とも見かけ通りの人間になる、と、皮肉っている。

This sort of confusion would be impossible in the present day, since nobody has a name anymore---or a profession, or a life story to tell. All that anybody has in the way of a reputation anymore is an odor which, from birth to death, cannot be modified. People are who they are, and that is that. The Law of Natural Selection has made human beings absolutely honest in that regard. Everybody is exactly what he or she seems to be.

(p.99)

V. 自身は、それほど名前を重要なものとしては意識していないように思える。

,,, not that it can matter much what anybody's name was a million years ago. (p.244)

あえて名前のもつ意義を考えるとすると、獣医Kenzaburoには、大江健三郎とつながる点はないが、そのことが、二十世紀という表面に現れている現実と中身とのギャップを暗示していることになるかもしれない。そのうえ、V.にとって、自分の小説におけるユーモアのしかけのひとつであると同時に、よく知られている特定の人物名を用いることによって、SF (Science Fiction) といわれる作品を、現実世界とつなぎ止める役割も果している。Ga.の中で、現人類の祖先として生き残る人々を乗せたBahia de Darwin号が、一本のロープだけで全人類の白いナイロン製のへその緒として、南アメリカ大陸に結びつけられているように。

It (the wave) snapped the white nylon umbilical cord which tied the future of humankind to the mainland. (p.214)

この1980年代後半から90年にかけては、オイル・ショックをのり切った日本の経済が急速に

成長したバブル崩壊前の時期で、Ga. では、日本の円とアメリカのドルしか世界の通貨として通用しない経済危機に陥っている。紙幣、株券や債券などの価値に関して、人間の意見に突然の逆転がおこり、お金で物を買おうとするものは罵倒される。

When James Wait got there, a worldwide financial crisis, a sudden revision of human opinions as to the value of money and stocks and bonds and mortgages and so on, bits of paper, had ruined the tourist business not only in Ecuador but practically everywhere. (pp.18-9)

"Wake up, you idiots! Whatever made you think paper was so valuable?" (p.24)

1990年に出版されたHocus Pocus 2 (以下Ho.)では、一段と成長しつつある日本経済を背景に、アメリカ企業は、日本、ドイツ、韓国、イタリア、イギリスなどの国々に買収されている。

... in an emerging ruling class of bankers and industrialists, largely displaced in my time by Germans, Koreans, Italians, English, and, of course, Japanese. (p.11)

日本人は背広を着た占領軍(Army of Occupation in Business Suits)として、アメリカを制圧し、その一環としてAthena's Wardenの所長Hiroshi Matsumotoという日本人が登場する。

90年代にかけての日本経済の急成長の一方で、1989年ゴルバチョフの米ソ和解政策に基づいて、東ヨーロッパ諸国が次々と社会主義体制から離脱し、11月には、ベルリンの壁が崩壊するといった政治の世界での大変革があり、アメリカがアジアにおける共産主義の拡大を懸念して、兵力を投入した朝鮮戦争(1950-53)や、北爆から戦線を拡大したヴェトナム戦争(1965-73)が、振り返ったときにむなしい犠牲であったと思われる。V. は特に、ヴェトナム戦争に参加した人を、Ga. やHo. の中で、道化として描くことによってアメリカ社会の愚かさを際立たせている。

さらに、この二十世紀の後半に目覚ましい勢いで前進したテクノロジーのひとつとしてコンピューターがある。1952年に出版されたPlayer Pianoでは、真空管の時代で、まだトランジスターは使用されていなかったが、短編集Welcome to the Monkey House (1968)の中の"Epicaac" (1950)では、巨大な空間をしめるコンピューターEpicaacが人間の女性と恋に陥り、失恋し、壊滅してしまう。それが、Ga. では、サイズは高さ12cm、幅8cm、厚さ2cmの高耐衝撃性のプラスチックに納まるほどに小型化し(,,inhabited nearly identical shells of high-impact black plastic, twelve centimeters high, eight wide, and two thick.)性能としては、多くの国の言語を一瞬にして翻訳できる"GoKubi" (a pocket computer capable of translating many spoken languages instantaneously, and he had named it "Gokubi".) であるとか、同時翻訳機でもあるし、データを

打ち込めば病気の診断も可能、百科事典的にある年の重要なできごとを列挙したり、引用語句辞典の動きをも兼ね備えた”Mandarax”として改良されている。(a new generation of simultaneous voice translators, and he had named it "Mandarax".) Ho. では、人間の諸々の個人的なデータから、その人の後半生を予測できる、コンピューター・ゲームGRIOT™が登場する。(You load it [GRIOT™] up with details about a life, real or imagined and then it spits out a story about what was likely to happen to him or her.) いずれも、それらのコンピューターは、1976年に出版されたSlapstickの中に出てくる、あの世の死んだ人間と話をする機械のHooliganとは違って、実用化の可能性がある。

そのように、V. の作品は、どのような時代、年代を背景にかかれたかということは非常に重要である。時代の動き、流れをいち早く察知し、望遠鏡的にとらえると、未来の危険性をSF的な作品として、今度は顕微鏡的に描き出し、社会に警告を与えていく。Ga. の中で述べられているように、人間が危険性に気がつくのが遅いという欠点を持っているからである。

There is another human defect which the Law of Natural Selection has yet to remedy: When people of today have full bellies, they are exactly like their ancestors of a million years ago: very slow to acknowledge any awful troubles they may be in. (p.129)

Ga. とHo. では、日本の急激な経済成長、世界の経済危機、環境破壊などが、今までの宗教や愛、戦争という話題につけ加えられた新しいデータとして、V. の大脳コンピューターに打ち込まれて、Ga. では1001986年11月のGalápagos Islandsの北端にあるという架空のSanta Rosalia が舞台になり、Ho. では、近未来としての2001年、刑務所図書館(Prison library)の中で、これからの裁判を待ちながら手記を書いているという設定になっている。

V. の初期作品群においては、主に核兵器をもちいた戦争による地球の壊滅ということが危険性の中心で、すでに人口増加や食糧飢饉は、短編”Welcome to the Monkey House” (1968) や”Tomorrow and Tomorrow and

Tomorrow” (1954) の中で取り扱われていたが、その他の環境問題は、アメリカの公害が深刻化しはじめた1970年に制定されたアース・デイ、1975年に発効された野生動物の国際取引を規制し保護をはかろうとしたワシントン条約などを足がかりに、1989年オランダのハーグで開催された環境サミットにおけるハーグ宣言などの社会の動きから、Ga. とHo. の中では、熱帯雨林、氷河の流出、核廃棄物、殺虫剤、自然資源などが言及されるようになってきた。

Cat's Cradle (1963) の中でice-nineがこぼれたことにより、凍結する地球を描いたが、それは核兵器を使用した後の地球に似ており、今日のようにソ連邦が崩壊し、米ソの対立が薄らいだ状況では危険性は遠のいた。90年以降は、悪いのは人間の巨大脳であって、惑星は純真に無垢であったと(This was a very innocent planet, except for those great big brains.)

Ga. の中で考えているV. にとって、現在の地球の状況は、おのれの発明の才でこの惑星を殺しているのであって、(human beings were killing the planet with the by-products of their own ingenuity)核戦争の危機よりも、これからは環境問題が第一義的な重要なテーマとなっていくであろう。

更に、Ga. の中でも、Ho. の中でも取り上げられている共通の話題として、遺伝という問題があり、Ho. の中で、手記を書いているHartkeは、次のように述べていることから、V. の関心の強さがうかがえる。

Heredity is obviously much on my [Hartke's] mind these days, and should be. (p.82)

時代背景に関するデータの中では一番大きなできごとである戦争ということでは、初期の Mother Night (1962), Slaughterhouse-Five (1969) などでは、第二次世界大戦が描かれていたが、時代の流れにそくして、Ga. , Ho. ではベトナム戦争というように対象が変化していく。

V. の作品は、現実との接点があまりないように思えるSF的作風であるが、V. の脳コンピューターに打ち込まれるデータは年代とともに更新されていく。そのため書かれた作品を評価、解釈する場合は、どのような時代背景に関するデータがインプットされたのかを見極めることは大切なことである。

(2) V. の脳コンピューター

V. にとっての芸術とは、人の生き方に何らかの形で役に立つものでなければならない。究極的には作品を読んでもらうことによって、その人の人生を楽しく快適なものにさせてあげるもの、というのが単純明快な基本的考え方である。言語とは何かとか、文学、芸術とはどういうことなのか、という難しい問題ではなく、社会の特定の人にはか理解できないような内容、書き方よりは、真の科学者とは小中学生にでもわかるように説明できる人のことであり、小説家としてのプロとしては、一般大衆が読みやすい書き方で複雑な状況を解きほぐし、多くの人に自分の伝えたいメッセージを把握してもらいたいと願っている。³

メッセージを多くの人に理解してもらいたいと願うのは、V. が現在の状況に不満を抱いており、自分ひとりではどうすることもできないので多くの人と協力し、社会を建て直したいと考えているからである。読んでもらう以上は、わかりやすくなければならない。内容がおもしろく、読むものを退屈させてはいけないとV. は思っている。⁴ それがV. の脳コンピューターの本体とも言えるCPU (Central Processing Unit) のことである。

80年代から90年代にかけてのアメリカ経済は、日本の経常収支の累積黒字の影響を受けて、双子の赤字 (twin deficits) と呼ばれた慢性化した財政赤字と経常収支における赤字を抱え、1988年、ドルが暴落するのであるが、Ga. Ho. の中には、そのような世界経済の危機

や、コンピューターの進出といった社会現象がデータとして打ち込まれると、V. の大脳コンピューターは、一体人間の作り出してきたシステムといわれるものは、本当に人々の生活を豊かなものにしてきているのであろうか。3kgもの巨大脳をもつ人間はうそのつき方ばかりが巧みになっただけではないだろうかと不信感を抱く。

The big problem, again, wasn't insanity, but that people's brains were much too big and untruthful to be practical. (p.189)

I often received advice from my own big brain which, in terms of my own survival, or the survival of the human race, for that matter, can be charitably described as questionable. (p.29)

安易に人々が信じ込んでいる進歩とか進化とはいったい何のことなのか。もしかしたら地球以外のどこかの星、たとえば *Tralfamadore* 星に住んでいる長老たちの実験、または人間を作った造物主の実験として人間が試されているのではないかと疑問を呈する。V. は現在の状況に不安感を抱くとき、社会の善や悪、進歩とか進化、愛、宗教、神とは何のことなのか、それはどうあるべきか、と、直接的に正面から説明したり解答を与えていくのではなく、それは意見の押しつけになるので、状況が本来の正しい姿であるかどうかを、作品を通して気づかせようとする。理想的状況がどうあるべきかを説明するのではなく、ソクラテス的に *why* という形で、なぜそうなるのかと、起こった事がら、起こりうる事がらに対して後方から光を当てる。たとえば *H.O.* の中で、*Hartke* は次のように考える。

"What is this place and who are these people and what am I doing here?" (p.259)

"Does this make any sense to you [General Florio]? Why is this happening?" (p.317)

彼の大脳コンピューターは舞台設定を未来にするということで、作品はSFとして分類されているが、決して新しいテクノロジーの世界に人々を先導していくのではなく、現在の状況から将来の不安感に駆り立てられて軌道修正を迫るという内容である。もし、このままでいけば自然淘汰の法則に則って、*Ga.* の中で描かれているように、人間は流線型に近い体形で魚を捕るのに都合の良いペンギンのような人間になってしまうかもしれない。

I [Leon] am prepared to swear under oath that the Law of Natural Selection did the repair job without outside assistance of any kind.,., And any fisherperson, spending more and more time underwater, could surely catch more fish if he or she were more streamlined, more bulletlike---had a smaller skull. (p.291)

なぜ、場面が未来のSF風の作品が多いかという点、状況の悲惨さに人々が気づいた場合、ほとんどの人が生きるのをやめたいほどに悲観的になってしまうと憂慮するからである。V. ができるならば、V. は悲惨な状況を描きたくない。H o. では、H a r t k e は、環境破壊が原因で世界に終わりが来るという話で、極度に生徒を悲観的にさせたという理由で教壇から追放されそうになる。

"When I was here you (Hartke) were predicting the end of the World," she said, "only it was atomic waste and acid rain that were going to kill us. But here we are. I feel fine. Doesn't everybody else feel fine? So pooh." (p.134)

V. は、意識的に悲惨な状況を書くことによって、人々を悲しませようとしているわけではなく、このままの状況が続けば人類がどうしようもない回復不可能な事態に陥りかねないと案ずるから、書かざるをえない。将来のことを思って受ける現在の苦しみと、将来実際に受けるようになる苦しみを比べて、未来の悲惨さのほうがはるかに大きいと考えている。V. は、決してH a r t k e が生徒からつるし上げられたように、誇大妄想的に状況を拡大し、いたずらに危機感をあおりたてているわけではない。作家の役割として、坑内に持ち込まれたカナリヤが、有毒ガスに人間よりも先に反応することによって、坑夫の命を救ってあげるように、作家は迫っている人類の危険性を作品を通して気づかせようとしているだけである。現実はずらいものであるとしても、できるだけ読む者を励まし、楽しい気持ちにさせるために、漫画的な書き方を用いる。V. にとってのSFとは、人々をいたずらに悲しませないようにするために、この世界のことではないと思わせる巧妙なトリック、つまり、この世の中のことでありながら、そうでないように思わせる工夫であるが、手法においては、漫画的な書き方を用いて、ひとつには理解のされやすさを目指し、二点目としては、笑いがちりばめられることで、重苦しい雰囲気を取り払おうとしている。理不尽な状況を写實的に事細かく書き上げて強調すると、人々は生きる意欲を失って自殺したくなってしまうので、無害なうそ (F o m a a r e h a r m l e s s u n t r u t h s) として、状況や人間をカリカチュアしながら、絵のない文字による漫画として、小説を書きあげていく。

H o. の中で、卑語を多く使った小説は、読むものに読まなくてもよいという理由を与えてしまう (,, , profanity and obscenity entitle people who don't want unpleasant information to close their ears and eyes to you.) 気づかうのと同じように、絵だけの漫画なら大人の読むものではないという理由を与えてしまうので、文字の漫画として、子供たちではなく、社会を動かす力でもあり、責任もある大人たちに読んでもらい、読んだ後で、いろいろと考えてほしいと願っている。シェイクスピアの16世紀から17世紀にかけては中世から近代への移向の時期で、見ることから読むことという変化していく文化の流れの中で、書き言葉が広まっていった時代であったからこそ、戯曲シェイクスピア文学は偉大な作品として読まれていったが、この20世紀から21世紀にかけては、文字の時代から映像へと移りつつある時代であって、V. の漫画的とも言える小説こそ、おそらく後世からみれば、文字から映像への転換期における文学、小説として、高く評価されるようになるのではないか。映像的といっても、V. の場合は、状況を手に取るように描写していくのではなく、

アイデアとして、プロット・登場人物が線によってふちどられている、輪郭の強調された小説ともいふべき絵の世界のことである。

従来の小説なら、一人の人間の生涯は貴重な意味合いを帯びた歴史で、それだけで十分に一冊の本になりえたが、V. の作品の中では、多くの人が画面上に現れたり消えたり、実体化したり非実体化しながら、出入りが激しい。一人の人間の生き方をエピソードの積み重ねとして捉らえていくV. 流の書き方に対し、彼の小説には真の人間が描かれていないと批判するものもいるであろう。ただ、今の時代は、アナログからデジタルへの移向の時期であって、人間の生き方も連続的な一本の線として把握していくのではなく、点と点の継ぎはぎだらけの人間もどきとして、(p a s t i c h e) 時代に応じた把握の仕方を彼は模索する。

人間としての根源的に不変な部分がある一方で、時代と共に変化していく部分もあるのであって、文学に対する評価基準も移り変わりがあってしかるべきであり、アイデアとしてのおもしろさ、プロットの多彩さ、用語の巧みさを特徴とする、ジョークの寄せ木細工ともいふべきV. 文学は、既成概念ではとらえ難い部分が多い。

たとえば、用語の巧みさ、表現のうまさでいえば、H o . の中で、主人公のH a r t k e がベトナム戦争からの帰路、途中のマニラで、アメリカ人の新聞記者を、意図しないにもかかわらず妊娠させて子供をもうける場面を、地球上のいたるところに偽装爆弾(Booby trap)が、しかけられていると表現したり、何か突然に幸運が訪れると、それは天国からのマナ(manna from Heaven) と語る。宇宙を動かす二つの力は時間とまぐれ(The 2 prime movers in the Universe are Time and Luck.)、この世の通貨は円とフェラチオと揶揄する。(,,the two principal currencies of the planet were the Yen and fellatio.) 軍隊という場所は、13週間で自殺志向と殺人志向を持った低能に人間を変えるところ(,,turned into a suicidal, homicidal imbecile in 13 weeks.)、ベトナム戦争は政府の全面協力による人殺しであり(,,the full cooperation of our Government.)、脱獄囚は自由の戦士("Freedom Fighters.")、G a . の中でも、水中に潜水したまま二度と浮上しないのが伝統というエクアドルの潜水艦が登場したり(the ridiculous Ecuadorian submarine fleet, whose tradition was to go underwater and never come up again.)、人間がアルコールにおぼれるのは、巨大脳をノックアウトし、小さな脳に戻すための進化に対する正しい方向修正ではないかと皮肉ったり(Why so many of us a million years ago purposely knocked out major chunks of our brains with alcohol from time to time remains an interesting mystery. It may be that we were trying to give evolution a shove in their right direction---in the direction of smaller brains.)、ゆっくりと動物を殺すのは、冷蔵庫で腐敗を防ぐという手間を省くための、人間の知恵の結果であるとして、(Long experience had shown sailors that cattle so treated could go on living for a week or more, would keep their own meat from rotting until it was time for them to be eaten.,,,In either case, there was no need for refrigeration.) 人間の残忍性を際立たせたりして、作品のいたるところに笑いを振り撒いていく。そのような笑いは、状況を一段高いところから全体的にとらえなければ生まれてこない。

笑いの構図の中では渦中にある道化的な本人が笑いだすことはない。Ga.の中で、語り手のLeonは、人生のほうから見捨てられた道化的存在のCaptainを次のように描写する。

And that was the sort of thing the Captain was thinking up there on the bridge: "What a life!" and so on. It was all very funny, except he didn't feel like laughing. He thought that life had now taken his measure, had found him not worth much of anything, and was now through with him. Little did he know! (pp.196-7)

V.のように、宗教の世界における神のような立場に、小説家としての視点を置いて書いているからこそ、状況を見下ろすことが容易にできるのである。笑いは、段差・落差からもたらされるずれがエネルギーとなって、笑いという感情の地震となって噴出する。極端に一方向に偏りすぎている状況に対し、反対方向にある世界を描けば、当然笑いが生じてくる。

V.の脳コンピューターのCPUの働きによって、Aというデータが打ち込まれると、それが-Aという形で転換されてくる。つまり、ダーウィンの理論に則って進化してきたといわれる人間の脳はなぜ嘘ばかりをつきあい、人間はお金によって食べ物が手に入るというおかしなシステムを築き上げ、人類を幸せにするための宗教で神のために人殺しをしたり戦争を引き起こしたりするのか、医学の進歩といわれるものは高齢化社会を生み出し、人口増加に手をかけて自然界における生物のサイクルを混乱させ、食糧不足を招き、今まで大自然の数々の恩恵を受けていた人間が、機械とか文明、テクノロジーの発達という名目で環境破壊を繰り返しているのか、そのようなデータがV.の脳コンピューターに打ち込まれると、オブラートのような笑いにくるんで、Aを-AというSF社会に転換し、 $A + (-A) = 0$ という数式で、行き過ぎた状況に対し、本来あるべき状況を、ゼロというあいまいなメッセージとして示唆しようとしている。

Ga.の中で、V.は序文にLeon Troutの母が一番好きだったという言葉として、アンネ・フランクの「いろいろなことにもかかわらず、人間は本当は善良であると信じている」(In spite of everything, I still believe people are really good at heart.)という言葉であげて、人間社会に対する信頼を失っていないことを表明する。また、Leonは、父のKilgoreが死の世界へ案内しようとやって来る場面で、「もう人生は何かという問題に対する好奇心も枯れ果てたであろう、おまえの人間について集めたデータは、野球カードやびんのふたのコレクター程度のものにすぎない、人間のことを勉強しても不愉快になるだけである」といって、人間社会から死の世界へと誘うのに対し、Leonは、それを拒否し、更に百万年間、霊として人間と一緒に地上に住みつくことを選択する。

Have I (Leon) at last exhausted my curiosity as to what life is all about? (pp.251-2)

For all your eavesdropping, you've (Leon) accumulated nothing but information. You might as well be a collector of baseball cards or bottle-caps. (pp.253-4)

"The more you (Leon) learn about people, the more disgusted you'll become. (p.254)

そのように、V. はあくまで作家としての立場から人間に対する信頼を持ち続け、現在の状況をよくするための努力を重ねていくことを選ぶ。

悲惨な現実を悲惨なものとして伝え、いたずらに人々を悲しませないように笑いを引き起こす構造で、冗談であると思わせる、絵のない漫画的な書き方を用いるが、その笑いの後には涙を伴う。笑いと涙は、絶望的な状況に陥ったときの感情の爆発ということで、同じ反応の表と裏であり、作品を読んでいるときは笑っていても、読み終わった後には悲惨な現実を思っただけで悲しい気持ちになる。笑いから涙へと、喜劇から悲劇へとの転換が起こる。

もし、人間の未来が明るいものであったなら、V. の大脳コンピューターは作動する必要はなかったろう。カタルシスということで、悲劇的な状況の中であって、小説の中で更に悲劇的な状況を描くことによって、読んでいる人達に今の自分の不幸な境遇は、まだよいほうなのだと思わせる書き方もあるであろうが、それは一時的に現実から目をそらさせるだけであって、ゆがんだ状況を正しい姿に立ち戻らせるきっかけにはならない。V. は、20世紀が悲劇的な状況であるからこそ、明るい漫画的な書き方を用いて笑いを誘いながら、では自分の置かれている状況はどうなっているのだろうか、なぜ、自分の生きている現実が楽しくないのだろうかと思わせようとしている。V. の大脳コンピューターは、-AというSF的状况を主張しているのではなく、それによってゆがんだ、いきすぎた現実社会とのバランスをとろうとしているのである。

(3) 大脳コンピューターから打ち出される作品

①構成

ほとんどの作品が一人称の主人公が今までの生き方に対しての記録、手記を書いているという構成をとっている。それに少し手を加えて、H. O. では、V. 自身は、裁判を待っているHartkeの手記の編者となっている。登場人物の一人の視点をとって、その背後にはV. 自身の存在があるのと言うまでもなく、V. が小説創作上での神であることには変わりはない。V. は視点をどこに定めて、どのように語っていくかというよりは、アイデアとしての作品のストーリーが重要なのであり、先にそれが決定し、その後で、どのように語っていくかが問題になるのである。

彼の大脳コンピューターの中では、一枚の絵として登場人物の太い線、細い線、長い線、短い線がそれぞれの人生の浮き沈みに応じて、曲線となって描かれ、主人公の線とほかの人々との線の交点を中心にストーリーが展開していく。V. がストーリー・テラーといわれるゆえんは、そのように登場人物を作者という神のような位置から、自由に動かすことができたからである。更にその視点は、作中人物のSF作家Kilgore Troutと、彼の売れない作品という関係とも重なり合って二重構造になっている。

(神：人間) = V. : 小説の登場人物 = 登場人物の一人のTrout : TroutのSF作品
 作品を全体的に見下ろす視点からとらえているので、時間内浮遊現象(Coming unstuck in time)として、Tralfamadore星人が宇宙旅行するように、登場人物たちは、過去から未来、未来から現在というように、時間帯の中で自由に行き来する。

人の一生に過去現在未来という境めはない。一本の線のように戯画化することによって、逆に、なぜ人間は生まれてきて死ななければならぬのか、大学生程度の年代の若者たちが抱くような疑問を、卒業したと思っている大人たちにも考えさせようとしている。

神のような視点を取ることで作品を未来に設定しやすいということは、読者に悲惨な現実社会のことではないという錯覚を与えることができるので都合がよい。そのため、V. の作品はSFという、ありがたくない範疇に分類されてしまうが、決して専門的な科学知識を謳歌するのではなく、むしろV. は、科学の進歩ということに疑惑を感じているのであって、機械が発達して人間の生活が便利になるのは、それだけ人間の巨大脳が欠陥品であることの証明であると、Ga. の中で語っている。

About that mystifying enthusiasm a million years ago for turning over as many human activities as possible to machinery: What could that have been but yet another acknowledgement by people that their brains were no damn good? (p.38)

V. のSFは、いわゆる疑似SFといわれるもので、できるだけ冗談であるように、別の世界のできごとであるように悲惨な現実を思わせながら、笑いを随所にちりばめ、読者が息苦しくならないように、ひとつの章はごく短く、場合によっては、Ho. で用いられたように、用紙の入手が困難であるという設定で、メモ用紙の大きさに応じて切れ切れに分断して一章を構成することもある。

E. A. ポーは、読者に一番深い感動を与えるための詩の長さということを問題にしたが、¹⁰ V. は、読者をあまり深刻な気分にはさせない、あきさせることのない読みやすい長さというものに気を使っている。

V. が人間の生き方をアナログとしての連続的な線で描くのではなく、線と線との交点として、デジタル的に捉えた短い章の積み重ねという構成は、一枚の絵として作品が平面的になりがちなので、墓碑銘を絵入りで小説の中に取り込んだり、序文を付けたり、時には Jailbird (1979) のように小説には珍しい索引を付けたり、しばしばシェイクスピアをはじめ、いろいろな人の言葉を引用したりする。他にも、作品の平面化、マンネリ化を防ぐための新しい工夫として、Ga. の中では、その日のうちに死ぬことになる人物の前に*をつけて、ダーウィンの進化論の試練にかけられて消えていく運命にあることを予告したりする。

The two(*Zenji Hiroguchi,*Andrew MacIntosh) with stars by their names would be dead before the sun went down. This convention of starring certain names will continue throughout my story, incidentally, alerting readers to the fact, that some characters will shortly face the ultimate Darwinian test of strength and wiliness. (pp.19-20)

Ho. の中では、文字として数字をそのまま用いたり、人物の年齢にマイナス(negative)を使ったりしている。

So, too, did Eugene Debo Hartke choose for reasons unexplained to let numbers stand

for themselves, except at the heads of sentences, rather than put them into words: for example, "2" instead of "two". (Editor's Note)

更に、このGa.でもHo.においても、Kilgore TroutのSF作品が紹介されている。Ga.では、ロボットにスーパープレーをさせても誰も関心を示さないが、そのロボットを有名人の代わりとして商品の宣伝をさせると飛ぶように売れ出したという内容で、機械が人間よりも正確なのは当たり前で、それは冷静に考えると人間の脳の欠陥性を示していることにほかならないことを暗示する。SFの長編小説としてのthe Era of Hopeful Monsterでは、環境破壊で奇形児が惑星上にあふれるが、それは体型ではなく性格的に奇形である現代人を風刺している。Kilgore Troutではなく、Ga.の中ではCaptain von Kleistが、Hiroguchiの娘Akikoに、生きゆでにされたくないという一心で努力し、結局は、妻をねとられたりするような人間と同じような社会を作り上げて苦しむロブスターの世界を、SFファンタジーとして語っている。Ho.では、the Elders of Tralfamadoreの中で、人間の不可解な行動は体内の化学物質によって左右され、エイズ菌や破傷風菌がいたるところにばらまかれ、それに対し人間がどのようにふるまうかの実験であると語られている。実際に作中で、Hartkeは結核菌に侵されている。Slapstick (1976)の中でもthe Green Death, Albanian Fluの原因として、細菌のことがかかれていたが、とにかく、作品の中に、更に登場人物によるSF作品を挿入することによって二重構造になり、奥行きが出てくる。

②登場人物

Ga.の中で、子供のLeon Troutは、死の入り口である青いトンネルに姿を見せた父Kilgoreを、生前と同じように不精髭を伸ばし、今までと同じように青白くやせこけ、タバコを吸っていたと描写している。

As in life, he still needed a shave. As in life, he was still pale and haggard. As in life, he was still smoking a cigarette. And one reason, surely, that I found it hard to take another step in his direction was that I did not like him.

I had run away from home when I was sixteen because I was so ashamed of him.

If there had been an angel in the mouth of the blue tunnel, instead of my father, I might have skipped right in. (p.255)

そのKilgore Troutは、V.と同じようにSF作家であり、百冊以上の本と千篇以上の短編小説を発表したが注目されていない。時には、Troutの作品の表紙に使われる扇情的な写真のために、ポルノ作家と誤解されることもある。家庭的には恵まれず、女房や子供たちからは見捨てられている。Ga.の中で、子供のLeonは、生れ故郷以外では誰も父のことを知らないが、

タイのバンコクで梅毒を調べてもらったときのスウェーデン人の医者が、父のことを知ってくれていたことで感激の涙をこぼしてしまう。¹¹ そのほかにもおなじみの招聘作家としての Paul Slazinger (the novelist Paul Slazinger, that year's Writer in Residence)、自動車のディーラーでレストランの経営者 Dwayne Hoover (automobile dealer and owner of local fast-food restaurants)、盲導犬の Kazakh (seeing-eye dog) などが登場する。V. 作品では、ある端役的な存在にすぎなかったものが、ほかの作品の中では比較的大きく扱われたりすることもある。¹² それは人物に限ったことではなく、舞台も架空の New York 州 Ilium, Midland City, Ohio や Tralfamadore が使われている。Breakfast of Champions (1973) 中のロボ・マジック・コーポレーション (a washing-machine Company named Robo-Magic Corporation.) まで登場してくる。V. のコンピューターの中には、ひとつのヴォネガット・ワールドというものが存在しており、作品のテーマに応じて誰を主人公にするかを決めて、人物や場所を臨機応変、適材適所に配置していけば、一枚の絵としての作品が完成するのである。そのヴォネガット・ワールドの中に時々、実在の有名人の名前を持った人物が飛び込んでくることがある。Ga. では、大江健三郎の Kenzaburo がそうであったし、他には、Mrs. Onassis, Dr. Henry Kissinger, Mick Jagger, Paloma Picasso など、Ho. では、Mrs. Onassis, Dr. Henry Kissinger の他に、Marilyn Monroe や J. F. Kennedy も名前が使われているが、それは前述したように作品のテーマとは直接的な関連はなく、ただ、V. の小説が SF 的すぎる印象を与えすぎないように、現実世界とつなぎ止めておくひとつの手段であると同時に、創作者としての V. の遊びでもある。ヒッチコックがよく自作の映画に出演したように、Ho. では、何を記念したのか Vonnegut Memorial Fountain が作られている。有名人ばかりでなく、Ga. と Ho. には、アメリカで一般によく読まれている雑誌 National Geographic が、Ho. の中で、その本の表紙に、海イグアナ (marine iguana) が日の当たる場所で海草を消化しているところが写っているとして、前作の Ga. の内容とオーバーラップさせている。

V. の作品では、人物は漫画的にカルカチュアされた道化であり、現実の人間とはかけ離れている印象を与えるかもしれない。たとえば、Ga. における詐欺師の James Wait は、まさに、その典型的な存在で、彼は偽名を用いて次々に 17 人もの金持ちの未亡人に近づいては、求愛と結婚を繰り返し、最後は自分の本当の名前が思い出せなくなってしまうのだが、死ぬ直前には、風車についての専門家で交響曲の作曲家 (He [James Wait] knew more about windmills than anybody alive..., He was also a composer.) であると思われて死んでいく。¹³ Ho. の中では、Hartke の義理の兄にあたる Jack Patton が、人生はあらゆるものが冗談にすぎない (Everything, and I [Hartke] mean everything, was a joke to him [Patton], or so he said) と語ったり、Hartke 自身が自分のことを致命的なホーカス・ポーカスの天才であると告白するように (I was a genius of lethal hocus pocus!) 極度に戯画化されている。V. は、人間の生き方よりも、そのような生き方を余儀なくさせている状況のほうに関心を抱いているのであって、小説が、

そもそも創作である以上、鏡のように写實的に描いていくのではなく、自分が現実世界から受けた印象のようなものを、つまり、生活していて感じたことをほかの人々に伝えたいがために書く、それには、どのように書けば伝わりやすいだろうかを考慮しながら、文字によって訴えていくのである。

③主張

V. が坑内カナリア理論で訴えようとしたことは、このままの状態では地球に未来がないという警告であった。作品を書き始めた50年代、60年代は、冷戦時代といわれ米ソが核兵器を武器として相手を威嚇し、にらみあいが続けていた。なぜ、資本主義、社会主義、共産主義というイデオロギーの違いのために人々は殺しあいを行わなければならないのか。G a. の中で、Leon Trout は、地球上のどこかで少なくとも三つの戦争が同時に行われていない日は一日としてなかったとか、(During my entire lifetime, there wasn't a day when, somewhere on the planet, there weren't at least three wars going on.)核兵器ではなく、普通の兵器を使用して人を殺しているかぎりは人道的な政治家として賞賛されると皮肉る。

As long as they killed people with conventional rather than nuclear weapons, they were praised as humanitarian statemen. (pp.145-6)

G a. では、百万年前の人間社会では、爆薬が娯楽産業のひとつであったとか、(,, ,of all to whom high explosives were a branch of the entertainment industry:,,,) H o. においても、戦争は単なる弾薬のビジネスであり(,, ,that war, which was about nothing but the ammunition business,,,)なぜ、人間がそのような愚行を繰り返すのかV. は理解できない。第二次世界大戦においては、兵士としてヨーロッパ戦線に参加した体験を持つV. は、G a. やH o. では、直接的にヴェトナム戦争における経験を持たないので、主に新聞等のマスコミで報道された記事、写真を拡大しながら、戦争というものの無意味性を伝えていく。H o. の一場面として、ヴェトナム戦争が、日常生活の中のデパートにおけるエレベーターの故障の場面と比較され、エレベーターに閉じ込められた人々は、これが歴史上の大事件で、大統領をはじめ、大騒ぎをしているだろうと考えるが、故障が直りエレベーターが動きだして戸が開くと、まったく今まで通り、何も変わることなく人々が乗り込んでくるだけである。アメリカの英雄としてヴェトナムから凱旋してきたつもりが、アメリカ国内ではほとんどの人が無関心であり、いったい自分は何のために命をかけて戦っていたのか、むなしい気持ちに襲われる。G a. でも、Captain von Kleistの同じようなむなしさが、Leonの回想として語られている。

And his(Captain's) feeling that life was a meaningless nightmare, with nobody watching or caring what was going on, was actually quite familiar to me. (p.127)

核に関しては、化石燃料に代わる次世代のエネルギー源として期待されながら、実際には、人間の

存在を脅かす兵器として重んじられている状況を考えると、もしかしたら進化とは、短い時間内に大量に人を殺せることを可能にしたという表現の言い換えではないか、また、オオツノジカの角が (the antlers of an Irish elk) 枝に絡まり、人間に捕獲されやすくなったということを見ると、進化といわれていることが実は、退化ではないか。Ga.の中で、Leonは、巨大脳にだまされ続けてきたことで、素直に進化ということを受け入れ難いとして、自然界の秩序に憤りを感じている。

Even at this late date, I (Leon) am still full of rage at a natural order which would have permitted the evolution of something as distracting and irrelevant and disruptive as those great big brains of a million years ago. (p.174)

宗教は、絶対的な存在としての神の立場を強調するために排他的な教えを強要し、そのために、考え方の異なるものを殺すことも容認し、Ho.の中ではナチの鉤十字からキリスト教の十字架が連想されている。

貨幣は人間の所有欲、独占欲をあおりたて、人を殺してでも奪い取ることをそそのかし、古代の人が豊かな生活を送るために作り出した貨幣制度というシステムは、人間生活のいたるところにひずみをうみだし、世界経済の危機をもたらしている。

50年代、60年代のV.にとっては、地球を滅ぼしかねないのは、イデオロギーの違い、宗教、民族、人種の対決、金銭に対する独占欲などを導火線とする、核兵器を使用した戦争ではないかと思われていたが、東西の対立がうすらぎ、ベルリンの壁が倒壊したことをひとつの契機として、共産主義体制が後退していくようになると、次の心配事として、世界経済体制の崩壊と、地球環境破壊という問題が浮かび上がってきた。Ga.の世界では、ドルと円しか通用しなくなり、人々は、ぼつぼつ餓死しはじめ、社会は無秩序状態に陥り、その経済恐慌でGalápagos Islandsへのクルーズが中止され、限られた人間だけがノアの箱舟ともいえる船で島にたどり着き、百万年後の地球では、ペンギンのような姿になって細々と生き続けている。

過去の多くの作家によってしばしば小説のテーマとして取り上げられた愛は、V.にとっては、巨大脳のまやかしの元凶であり、人間が生物の一種である以上、アガペ的な愛もエロスの愛も、アオアシカツオドリ達 (blue-footed boobies) のような単なる生態反応のひとつとしてであり、特別な意味合いを持たせないように気をつけている。

いずれにしろ、V.は無害なうそといわれるアイデアで、いきすぎた+Aという状況に対し、-AというSF世界を作品として描き出し、本来のあるべき姿に気づいてもらいたいと願っている。V.のSFは、書かれた当時はドタバタ喜劇であったかもしれないが、後世から見ると、Ga.の中でLeonが述べているように、計り知れない価値を持った作品として評価されるかもしれない。

..., although the stuff of low comedy at the time, has turned out to be of incalculable value to present-day humankind. (p.140)

V. の大脳コンピューターは、このままでは人間はもっと不幸になるという危惧を抱き、そのためには、自分一人の力ではどうにもならないので、多くの人たて直すのに協力してもらうため、わかりやすい書き方で作品を生みだしていく。その場合、状況をそのまま描くと、人々が悲観的になって生きる意欲を失ってしまうのではないかと配慮するところに、また、そもそも人類の未来を心配し、救いたいと願っているところに、ヒューマニストといわれるヴォネガットの本質があり、それが彼の大脳コンピューターの本体であるCPUである。

Text

Galápagos (New York: Delacorte Press/Seymour Lawrence, 1985)

Hocus Pocus (New York: Berkley Books, 1990)

Notes

1. NHK教育テレビ「現代小説のめざすもの」 国際ペン大会記念テレビ対談
対談者 カート・ヴォネガット、大江健三郎 1984年6月8日放映
2. ① a meaningless chant or expression used in conjuring or incantation,
② a juggler's trick; sleight of hand,
③ trickery; deception,
④ unnecessarily mysterious or elaborate activity or talk to cover up a deception, magnify a simple purpose, etc. (Random House Second Ed.)
3. Simplicity of language is not only reputable, but perhaps even sacred. The Bible opens with a sentence well within the writing skills of a lively fourteen-year-old:
"In the beginning God created the heavens and the earth." (Palm Sunday)
So you, too, had better avoid Picasso-style or jazz style writing, if you have something worth saying and wish to be understood. (Ibid.)
4. Carpenters build houses. Storytellers use a reader's leisure time in such a way that the reader will not feel that his time has been wasted. (Ibid.)
5. V. は、Breakfast of Champions を書いた後で、12才の子供から自殺をしないようにという手紙をもらったことがある。
I received a note from a twelve-year-old this morning. He had read my latest novel, Breakfast of Champions, and he said, "Dear Mr. Vonneget: Please don't commit suicide." Wampeters, Forma & Granfalloon (1974)
6. the-canary-bird-in-the-coal-mine-theory of the arts
7. Tony Tanner, City of Words (New York: Harper Row, 1971)
Vonneget depicts man as inveterate pattern-maker, as other writers like Thoms Pynchon do. (Chapter 8, "The Uncertain Messenger", p.184)

The plurality of patterns and messages in the book undermines the notion of any final truth:,,, (Ibid.p.185)

8. So your own winning literary style must begin with interesting ideas in your head. Find a subject you care about and which you in your heart feel others should care about. (Palm Sunday)
9. V. は、Wampeters Foma & Granfalloonsの中で、SFには三段階あり、第一段階は冒険優位の話 (Adventure dominant)、次は科学優位 (Technology dominant)、三段階目は社会学優位 (Sociology dominant) のものと考え、自分の作品は三段階目のSFと分類している。
10. Edgar Allan Poe (1809-1849)
"The Philosophy of Composition" (1846)
11. Breakfast of Championsの中でも、大財閥の御曹司で大金持ちの Eliot Rosewater が、唯一 Kilgore Trout に対しファンレターを送ってくる。
12. Ga. 中の語り手 Leon は、Breakfast of Champions では、Leo という名前で登場している。
13. Jailbird の中でも、ショッピングバック・レディは偽名を使っているし、Mother Night (1962) のようなスパイ小説も、やはり偽名を用いて小説をおもしろくさせるトリックであり、そもそも、Kilgore Trout というSF作家は、V. 自身の偽名でもある。偽名も作品を二重構造にしている要素の一つである。